

ふさとを知らう シリーズ⑬

伊牟田 泉 (直治)

『肥後先哲偉蹟』後編によれば、伊牟田泉（一八一七～九二）は、田島天満宮の祠官で、神道の衰退を憂えて、和漢学の修得に全力を尽した人物でした。天保十（一八三九）年、二十三歳の時に、「初めて皇道を説き、国体を弁じ、世人をして尊王敬神の道を悟らせ、（中略）藩主細川侯の前に於いて、神道講演を命じられ、爾後細川家一門三家を始め、諸大名及び筑前・肥前・豊後等の諸藩に聘（へい）せられ、皇道の尊厳と国体の卓越にして、他に比類なき事」を説き、後に神道家として九州における尊王攘夷運動の牽引的な役割を担っています。

天保十一年頃から、伊牟田泉のもとに、諸国から遊学して来る者が次第に多くなり、嘉永元（一八四八）年には、田島天満宮脇に私塾「清乃屋」を開き、正式に漢学・筆道・算術などや皇道学を教えました。

あがり、五〇〇余の門生の「絃誦の声日夜絶えず」という盛況ぶりでした。

また、安政二（一八五五）年三月に、藩主齊護は、伊牟田泉に「学問心懸け厚く、別て国学に委しく、多数の門弟、教導数年、手厚く行き届き、且つ能く両親に孝道を尽くす」として、毎年米五俵を給付しています。こうして「清乃屋」は明治五（一八七二）年の「学制発布」（実際は明治十七年）まで続きました。

肥後藩知事細川護久（もりひさは）は、明治三（一八七〇）年七月、「村々小前共え」を布達、「肥後の維新」での実学党の方針を明示しますが、伊牟田泉は、十一月に「乍恐御趣意十二稜教化之弁」を提出し、神職ながら好意的な提言をしています。

（文責）社会教育指導員 堤 克彦



伊牟田泉の肖像画（田尻瑞璃氏蔵）

文教菊池の人々（江戸期の人物篇）

第5回菊池管内環境フェア

今年も菊池環境保全組合の構成市町である菊池市、合志市、大津町、菊陽町、菊池環境保全組合、各種団体の協力により開催します。

今年のメインテーマは『分ければ「資源」まぜれ



昨年の「菊池管内環境フェア」

ば「ごみ」、サブテーマを『マイバッグの普及』としています。住民一人ひとりがごみに関心を持ち、ごみを発生源で絶つ（リフューズ）、ごみを減らす（リデュース）、繰り返し使う（リユース）、再び資源として利用する（リサイクル）の4Rに取り組んでいます。

分別をきちんとすることにより、ごみの減量化につなげ、循環型社会の実現を目指します。

と き 9月9日（日）午前9時～午後1時

ところ 泗水ホール

受付 午前8時 30 分から抽選券配布（マイバッグ無料配布）

催し物 リサイクル自転車やお楽しみ抽選会、くだもの・野菜の販売、フリーマーケット、種子を使ったプローチ作りなどの体験コーナーなど

問い合わせ先 泗水総合支所民生課・環境課廃棄物対策係 または菊池環境保全組合 ☎ 096（293）2555

ここ数年の異常気象は「地球温暖化の影響で発生する確率が高まった」と分析されています。このまま温暖化が進むと、ただ気温が上がっていくだけでなく、気候のバランスが崩れてしまします。極端に暑かったり、寒かったり、大雨が降ったり、まったく降らなかったり・・・そんな異常気象が当たり前になってしまします。

影響はとても身近なところにてできます。日本国内で生産している食べ物約40%で、残りの60%は海外からの輸入に頼っています。もし、世界中で干ばつや異常気象が起きて食料不足になったらどうなるでしょうか？ そうならないためにも、身近なライフスタイルを見直してみましよう。温暖化の原因となる二酸化炭素の量を誰でも減らすことができます。

- ・買い物にはマイバッグを持参する
- ・マイ箸を持ち歩く

使わない電気を消す

- ・食材は古い物から買つよう心がける
- ・季節によって温水洗浄便座の温度を調整する
- など、ちょっとしたエゴを取り入れるだけで温暖化防止につながります。

皆さんも、ぜひ取り組んでみましょう。

問い合わせ先 環境課

平成19年度 大気汚染防止推進月間 ポスター募集

12月は「大気汚染防止推進月間」です。そこで、青い空の大切さや、大気をきれいにするアイデア・工夫、あなたの描く美しい空などを自由な発想で表現してください。

なお、冬季の掲示となるため、季節感にご注意ください。

優秀作品は、本年度の「大気汚染防止推進月間」のポスターとして、12月に全国各地に掲示



されるほか、来年のカレンダーなどに活用される予定です。

応募規定 B4・B3版用紙。青い空の大切さや、空気をきれいにするために一人ひとりがやるべきことなどをよびかけるひとこと（キャッチコピー）を入れる。画材、縦横使い、デザインなどの表現方法は自由。

応募用紙に必要事項を記入し、作品の裏面に貼り付ける。応募する際は、作品を折り曲げずに郵送する。

応募点数の制限はなし。ただし1枚につき1案。

締切 9月17日（月） ※当日消印有効

発表 10月下旬 ※入賞者に直接通知

主催 環境省

（<http://www.env.go.jp>）

- ・独立行政法人環境再生保全機構（<http://www.erca.go.jp>）

問い合わせ・応募先 〒105-0004 東京都港区新橋5-20-4 ニッセイエフプロ株式会社内「大気汚染防止推進月間」ポスター募集事務局 ☎ 03（3655）7085 ※平日午前10時～午後6時（土日祝日除く）

●専用ホームページ <http://www.aoi-sora.jp>

人権同和教育シリーズ②⑦ 命 七城中2年 田中 穰

ぼくは、極小未熟児として12年前に生まれました。自分ではピンとこないのですが、生まれたばかりの写真には、医療器具をたくさんつけられた小さな小さな「ぼく」が写っています。

「生きるためにはどうしても機械の助けが必要だったのよ」

母に聞くと、自分の力だけでは生きることが無理だったということを感じさせられました。

ぼくが生まれた病院には、ほとんと同じように早く生まれた子どもや、治療のために病院で1年、2年、それ以上の期間を過ごしている子どもたちがいます。ぼくもその病院に何度か行ったことがあります。「GCU」や「NICU」と呼ばれる集中治療室。自分の目で初めてそこを見たときは本当にびっくりしました。たくさん子どもたちが医療器具に囲まれた中で、「生きる」ために一生懸命に頑張っています。なんだか鳥肌が立ちました。

そしてそんな中に昔、ぼくもいたんです。信じられない

と同時に今元気に生活できていることが不思議に思えました。治療に当たられる医師の先生たちはもちろん、看護師さんや保育士さんも毎日休むことなく子どもたち一人一人の状態を見られて治療に当たっておられます。生死の境をさま迷う「小さな命」。こんなに一生懸命に生きようとしている・・・。「命」の大切さを重く感じました。

以前、母に「どうしてぼくは早く生まれたの？普通に生まれなかったの？」と、聞いたことがあります。2月25日が誕生日のぼくですが、普通に生まれてきたら5月生まれ、学年も一つ下になるはずだったと知って何気なく言った一言でした。

しかし、よく考えてみると、ぼくにとっては軽い気持ちのこの一言を母はどんな気持ちで受け止めたのでしょうか。きつと、ぼくがここまで大きな中で心配することはたくさんあったはずですが、今は、母にすまない気持ちでいっぱいです。ぼくが生まれたあのとき、たくさんの方の支えや家族の愛情があつて「命」があつたからこそ、今、ここに生きているのに・・・。

何かにくじけたり、できなくて悔しかったりすることが



あると、それまでのぼくは（何でだろう）と思うこともよくありました。しかし、その気持ちはなくなりました。生きて今ここにいてこの幸せを感じることができたからです。先日の新聞には、「呼吸器を外す」という記事が掲載されていました。どんな理由があるにしろ生きている限り、呼吸器を外してほしくないなあとは思います。呼吸器をつけている人は自分では決められないけれど、今僕自身がここに生きていることを思うと、最後までその命を生かしてほしいと思います。

今、ここで生きているぼくの「命」。これからも大切にしていきたいと改めて思っています。そしてこの「命」が自分だけのものではなく、ぼくを大切に見守ってくれた両親や多くの人々の思いの結晶であることを忘れないで毎日暮らししたいと思います。